



会長あいさつ

退任にあたって

白門40年会 会長 新井嘉昭

白門40年会の会員の皆様、お変わりなくお過ごしのことと思います。我が白門40年会は、平成8年5月創立され、今年で15周年です。この間ずいぶん長いようでもあり、またあつという間のようにも思われます。会員の皆様それぞれの思いがあると思います。私は時間の経過が速いと感じられるのは、「幸せ」な証しだと考えるようにしています。やれ病気だ、やれもめごとだ、とそれぞれの問題を抱えているときは、思い悩み時間の経過が遅く感じられます。そのため時間の経過が速いのは、そのような問題がないのだ、それはそれで「幸せ」なのだと考えるようにしています。

この1年間、母校で大きな変化が起きています。その1つは、施設整備基本方針に従い、新宿区市ヶ谷田町に約1500平方メートル

ル(約450坪)の土地と、15階建の建物(延約7300㎡)2200坪)を約70億円で購入しました。市ヶ谷キャンパスに続き都心回帰の第2弾です。現在のところ、学部として使用する予定はないようですが、学部も含めた「真の都心回帰」の実現を期待しています。評議員会で、都心に施設を取得するのであれば、多くの学員が125周年の記念募金とは別に、その取得のための特別募金に応ずるであらうという発言がありました。そのとおりだと思います。

第2は、今年4月、小金井市の中央大学付属高校の下に、新たに付属中学が開校したことです。受験生にも人気上々のようです。最近受験生の早期とり込みの方法として、またゆとりある中高生活を送ることができるよう、私立のみならず公立校でも、中高一貫校

が誕生しています。その大きな流れをとらえたヒット施策でしょう。

第3は、母校の入学者確保の重要拠点地区の横浜にある、横浜山手女子学園と今年11月合併することが決定されていることです。今後は母校の附属高校として、来年4月に開校することを目指しています。この新たな附属高校にも期待しています。第2・第3の施策は、少子化時代を迎えている現在、大いに評価すべきでしょう。

最後に、私は白門40年会が創立された当初から、会長として会の運営に携わって来ましたが、平成22年4月17日の総会で、任期満了により退きます。長い間お世話になり、ありがとうございます。平成8年当時、昭和37年から41年までの5つの年次支部が結成されていませんでした。白門40年会の創立準備は、学員会が各年次支部

の結成を呼びかけたことを契機に始まりました。その最初の打ち合せ会に参加したのは、ほんの5、6名でした。平成2年に母校から第1回のホームカミングデーに初めて招かれたのが、我々昭和40年の卒業生でした。そのホームカミングデーのための名簿を頼りに、案内状を送ったり、それぞれがゼミ仲間、声をかけたりした結果、500名を超える仲間が増えました。おそらくこの仲間のうち、在学中に知っていた仲間はほんの僅かでしょう。その後の会合で、新しい仲間と会えば、数十年の知己のよう、にすぐ打ち解けて語り合うことができました。それが同窓に学んだ者同士の連帯感なのでしょう。これからもそういう仲間を増やして行きたいものです。

長い間至らぬ会長を支えて下さった皆様に、感謝の気持ちで一杯です。また次の会長が選任されますが、新会長に対し、私に対してご支援いただいた以上のご支援・ご協力をお願いする次第です。